



全日本民医連名護市長選挙支援活動に参加して

1/9 に那覇で行われた全日本民医連社保委員会に引き続き、市長選挙支援のため名護に入りました。今回私にとって、4年前に続いて2回目の支援参加でした。私の他に民医連関係は、是枝全日本事務局次長を始め、国民運動部事務局の方や長野、福岡、鹿児島、沖縄各県連から計14名、その他、新日本婦人の会の方々が15名くらい支援に来られていました。

それぞれの自己紹介の後、現在の情勢報告がありました。今回の相手陣営の意気込みは半端なく、年明け前から自民党の重鎮が入れ替わり立ち替わり名護に来て、基地移転受け入れに対して大幅な経済的支援を表明したりと、なりふり構わぬ運動を始めており、選挙の初期段階としてはかなり遅れをとっていることが報告されました。政府としては、今回の名護市長選挙の結果が今後の対米基地戦略において大きな意味を持つとして最重要視しており、これを契機に、今秋の沖縄県知事選挙勝利につなげたい思惑があるとのことでした。

稲嶺現市長は、2期8年にわたり翁長知事とともに、辺野古新基地移設反対を掲げ、断固とした姿勢で対話を中心とした平和なまちづくりを進めてきました。市の財政を立て直し、県内の市で初めて、中学卒業まで



入院・外来での子どもの医療費無料化も実現させたりと実績も十分で、広く市民からの支持を得ています。今回の私は支援できる時間が少なく、午前中に60件程度のピラ配りくらいしかできませんでしたが、実際その途中で対話できた何人かの住民からは、「この辺の人たちはみな移設反対やから大丈夫や」という声も聞かれました。

私が滞在していた8日にも、また読谷村の廃棄物処理場の敷地に米軍ヘリの不時着があり、昨年ここ数日の間で頻回にこのような事態が起こっており、現地の方々が何年来と危険のない平穏な暮らしを切望してきたこと、このことに私たちももっと関心を持ち、同じ日本人としてどうしたら解決できるか考えていかななくてはならないと強く感じました。

(高松協同病院連携相談部 藤原勝之)



リレー投稿

安倍総理は「憲法9条を改正し、その自衛隊存在と役割を明記していく。むしろこれが正しい姿だろう」と話し憲法9条改正の必要性を明言しています。

憲法学者で首都大学准教授の木村草太さんは「よく、9条を改正して『普通の国』になるのだという主張も聞かれるが、自衛権の行使の枠を超えて軍事行動をするのは、国際法的に見て『普通でない』。憲法9条と言うのは制定当初は特殊な規定だったかもしれませんが、現在では国際法の『普通』を確認した規定という意味合いが強い規定です。『何がやりたいか分からない改憲論』というのは不気味です。不気味で不合理な改憲論だからこそ、拒否反応を示す人も多いのだと思います」と述べています。安倍政権がやろうとしている憲法改正に多く人が違和感を覚えるのは、この不気味さ故ではないかと思えます。

数年前に話題となった、スタジオジブリの宮崎駿

監督の憲法改正に対する見解です。「選挙をやれば得票率も投票率も低い、そういう政府がどさくさに紛れて思いつきのような憲法を変えようなんてもってのほかです。考えの足りない人間が憲法なんかいじらないほうがいい。本当に勉強しないで、ちょこちょこ考えて思いついた事や、耳に心地よい事しか言わないやつを聞いて方針を決めているんですから。それで国際的な舞台に出してみたら、総スカンを食って慌てて「村山談話を基本的に尊重する」みたいなことを言う、まったく。「基本的に」ってなんでしょう」。宮崎監督の言葉でした。

(老人保健施設虹の里 戸田武彦)

安倍 改憲に

物申す



一言